

シェアにのみや（そしん）2017年11月18（土）

### 【決算報告についての質疑応答】

（参加者）決算審査意見は、その後の結果が大切、時間をかけて説明してほしい。

（決算審査委員長）今回は9月議会の審査で意見を提出したもので、平成30年度予算に優先的に反映させることが目的であり、結果はこれからとなる。

（参加者）自主防災の手引き書が作成されたとのことだが、自主防災組織はすでにあるが。

（決算審査委員長）各地区の自主防災組織へ「手引き」について説明に伺い、今年度中には公開したいとのこと。全地区に組織はあるが、この手引きにより、最低限の活動を促すものの目安となる。

（参加者）ふだん、地区の行事に参加できない者としては、ホームページか配布物でしか見ることができない。手引きのようなものは早く公開していただければ、意見も言える。改善もできる。

（参加者）各学校のホームページは誰が作るのか。先生を新たに雇うのか、残業させるのか。どう考えるか。

（決算審査委員長）地域の方々と子どもたちが共同で参画するのが良いと思う。先生に任せるのは厳しい。

（参加者）公共施設再配置ワークショップへの参加者が最終的には少ないとの話だが、以前そのような会に参加した時「ご意見伺います」で終わってしまうのではないかと思った。今はどのような感じなのか。

（決算審査委員長）今回はプロのコンサルタント会社が入っており、意見は公にされる。その意見を執行者側が反映するか否かが問題。一つひとつ議会でもチェックしていくが、そのような意見を発信し続けて欲しい。

（参加者）決算審査意見の全体のレベル合わせができていない。具体的提案になっていない審査意見もあるが、議会はどこまで言えるのか。

（決算審査委員長）決算審査特別委員会の中では細かく意見を出しているが、表現としては幅広くなってしまう。傍聴にも来てほしい。

（参加者）図書館については、人件費等の経費削減を以前言っていたと思う。開館日、時間を増やすことは経費も増えることとなる。その辺についてはどのように考えているのか。

(決算審査委員長) 曜日ごとによる開館時間を変更するなどの工夫も大切。開館日を増やすと経費が増える。しかし、二宮町の図書館の開館日数は県内で一番少ないのも事実であり、経費をかけずに町民サービスの向上を考える工夫は大切である。

(参加者) 開館日、時間を増やすこともあるが、貸出冊数を増やしてほしい。

(決算審査委員長) 町民のニーズはさまざまあるので、一つひとつの要望に沿った改革を求めていきたい。

(参加者) 広報にのみやにも決算報告が載っていて、仮に家庭での支出比率を表していたがまったく意味がなく、無駄だと思う。それよりどこでどんな工事をしたか、民生費で何をしたか具体的にあると分かりやすいし、それを知りたい。

(決算審査委員長) 町に提案する。

#### 【意見交換会 高齢者福祉Aチーム】

(参加者) 葬祭費用委託料を支出したとのことだが、何歳の方か。町は75歳以上の方を吸い上げ民生委員へ伝える。医療情報シートもあり、必要な家庭に対しては追加登録をしている。年齢に関係なく一人暮らし、独居老人の方なども把握しておいた方が良いと思うがいかがか。

(議員) 75歳以上の方の情報はあがるが、それ以下の方は何も知らないでは民生委員としてはつらいのは理解する。

(参加者) 75歳以上の方に対して民生委員さんは何をしているのか。

(参加者) 登録者訪問のほか、新聞等ポストの郵便物の量や雨戸の開閉状況なども見ている。

(参加者) 町内に独居老人は何人いるのか。

(参加者) 釜野では日中に独居の方も含めると約1割いる。

(議員) 町全体としてどの位いるか把握できておらず申し訳ない。

(参加者) 医療情報シート登録者は重度障害者も含めると860世帯ほどだが、プライバシー、守秘義務、個人情報等々により情報が入らないのが問題。残すは地域のつながりしかないのではないか。

(議員) どこにも所属していない人より、ゆめクラブに所属されているかたの方が情報量は

はるかに多く、いろいろなことを知っている。集うことにより情報も多く入るので、勧誘して会員を増やすこともセーフティネットにつながる。

(参加者) 釜野地区では毎月地区長会でも時間をいただき、メンバー増を目指し、説明、お願いをしているが、残念ながら現在は 63 名と減少してしまっている。

(参加者) 茶屋から聞いた話だが、奥さんが倒れて入院、その後夫も倒れてしまい、地区長が病院へ付添いしたとのこと。犬もいたらしい。一人暮らし、重度障害など、年齢に関係なく自主的に地区への登録をしておくのが大切であり、促す必要があると思う。

(参加者) 二人住まいの高齢者世帯は登録をさせた方がよい。民生委員や地区との情報共有は個人情報保護より重い。また、災害時に黄色いタオルを出すのが、防災訓練では出ていない家に声をかけて応答を地区へ報告をするようにしたため、30 分で全世帯の安否を把握することができた。

(参加者) 高齢で二人とも動けない家庭は各地区にいるはず。冷蔵庫に緊急連絡先が書いてあるとか、医療情報シートに記録されているとか、町内全体で徹底させることはできないのか。

(参加者) 地区ではチラシ等を配布し、地区や民生委員にも連絡するよう言っている。

(参加者) 緊急連絡先を書かせると良いと思う。

(参加者) 町としてはできていないが、地区としては家族構成を把握しておきたい。組長に作成をお願いし、各家庭で記入してもらった。緊急連絡先も記載してある。組長は地域をよく見て回ってもらうようお願いしている。

(参加者) 百合が丘で組長をしていたときに、自治会で各家庭の名簿を作ったこともある。

(参加者) 町内会、自治会に入っている人はまだ良いが、入っていないかたが 60 世帯、釜野地区の約 1 割。そのかたたちはよく分からず困っている。

(議員) 高齢者福祉と防災はリンクしている。防災面から高齢者を把握するやり方も大切なことだと思う。

(参加者) 町内会、自治会に入っていない人をどうするかが一番の問題。

(参加者) 役場でも PR していると思う。

(参加者) 地区へ何も連絡しないまま転居され、空き家となるのが困る。環境が悪くなるが、町内ボラで対応したときもある。釜野には空き家が 25 軒あり、うちすごいのが 3

軒あるが、手を付けるなど怒る人もいて、どうしたらよいか困っている。

(参加者) 空き家対策は根本的に考えてほしいし、こちらも意見を出さなければいけないと思う。

(議員) 各地区の対策を聞かせてもらった。高齢者福祉は防災の観点にもつながる。特に若い人には防災がきっかけとなるので改めて意識したい。

(参加者) 二人世帯の登録となると、すごい世帯数となるので難しいのではないかな。

(参加者) 民生委員に任せるだけではだめで、町内みんなで協力すべきではないかな。

(参加者) 新たなコミュニティーバスが運行となり、釜野地区は不便になった。1日2本では利用できない。データを取ってより利用しやすいように改善を求める。

### 【まとめ発表】

問題提起を民生委員のかたからいただいた。一人暮らしのかたを町が茶毘に付したとのことだが、いくつのかただったのか。75歳以上のかたの情報は入るが、それ以下のかたに対しては分からないがそれでよいのか。

- ・医療情報シート登録者は町内で860世帯しかない。
- ・ゆめクラブに入会していると情報も多く入手できるので、会員増を推進していきたい。
- ・年齢に関係なく、一人暮らし、日中独居、障がいを持つかたは地区へ登録してほしいし、そのシステムが大切であると思う。
- ・各家庭の情報を把握するのに防災面から整備するとより良いのではないかな。
- ・空き家対策も問題であり、知らないうちに施設に入る、転居される、この点を改めるのも高齢者対策の一つとなる。

### 【意見交換会 高齢者福祉Bチーム】

(司会) 通いの場については。

(参加者) 同じ人、女性が多い。人が集まりすぎると場所が小さい。今後高齢者増加に対応した場所の確保が必要。

(参加者) 金をかけられないのは分かるが、地域に丸投げ。来られない人等、今後どうすれば。ボランティアの限界があり、助け合いだけではなくシステムが必要。

(参加者) 町は健康指導の専門家をなくすが、地域の人では場をうまく進行できない。

(参加者) 異なる目的のサロンとミニデイを一緒にした。通いの場はどのような場にしたいのか。方針が分からず今後どうなるのか不明。あるべき姿をだせ。

(司会) 民生委員として社協については。

(参加者) 町は社協に委託、しかし社協と町の情報共有が不十分で、政策や計画に活かせていない。

(参加者) 防災無線で徘徊の知らせがある。高齢者に GPS を携帯させるのはどうか。地域の見守りでは限界である。

(司会) 恒道会について

(参加者) もとまちの家、定員に対して半分の入所者、経費を賄えないのでケアができず事故の危険がある。

(参加者) 施設として機能できず、町の対応が必要。所轄官庁の県の対応も必要。

(司会) 災害時の要支援は。

(参加者) 民生委員と町内会の支援者リストが一致してない。リスト内容では支援に対し情報不足、民生委員ではこれらの情報を掴むのは無理。

(参加者) 介護家族へのケア不十分だと感じる。

(参加者) 町内の道にベンチがほしい。

(参加者) 出された意見をそのままにせず、意見交換の場を増やし、さらに深めたい。

## 【意見交換会 学校教育】

(参加者) 私は日産の技術開発をしている。子どもたちの未来を拓くためのことが大人になってもつながっていると実感する。子どもの頃から心がけてほしいことなどがある。そういったことに重点を置いて、キャリア教育を推進してほしいのが私の思い。学校からの情報発信などでいろいろ共有してもらうことも大切。これからコミュニティスクールも始まり、地域ぐるみで子育てを進める取り組みが始まり、それは重要である。学校のホームページや地域参画の形態など、重点的に進めてほしい。

(司会) 議会でも先進地の三鷹等へ行っている。はぐくみ塾という先生方の勉強会では、八王子の学校長からコミュニティスクールのお話をしてもらった。コミュニティスクールは、いろいろ事例はあるが、地域の特色を生かし、地域にあった形で自由に作っている。地域で育ちあおうというもの。なかなか見えていないのでイメージだけになりがちだが皆さまからご意見もらいたい。

(議員) 補足するが、学習指導要領が改訂になり法規づけされた。基本的なことに加味して各自治体で自由にやってほしい。地域独自でやっていいとなっている。

(参加者) もうすこし具体的に聞きたい。

(参加者) 技術開発にしてもそうだが、仕事に対して本当に好きで取り組んでいるのかというのが最後の砦。1つ得意なことを持って、というのが願い。スタートは気づきを得ること。そしてとことんやって1段上がり、次にステップアップできる。気づきとステップアップの繰り返し。私の場合で言えば、PTA活動。技術系の講演をよくやっている。山崎直子さんやサイエンスショーなど技術系の話を重点的にやり、きっかけを作った。

(司会) どこかは失念したが、商工会全体でキャリア教育をしているところがある。パン屋に行って話を聞くとか。商店主が自分たちの話をきいてもらう。そのうえで社会見学で店舗に来てもらうとか。そういうことが行われている具体事例もある。

(議員) 具体的な仕事の前にキャリア教育として、土壌作りの話だったかと思う。鋭いご意見だった。

(参加者) 子どもはどこに好奇心のスイッチがあるか分からない。だからいろいろな刺激を与えてあげることだ。例えば実験ショーをやった時に、「こういうのが大好き」と言ってきた子がいることに気づいてあげること、吸い上げてあげること、その仕組みが大切。スポーツや文化はあるけど、技術は吸い上げたり引き上げたり仕組みがなく、必要。企業ではさまざまな出張事業がある。食品関係は食育とか。企業の身近な話題から入ってもらうのも手。

(参加者) 学校においては、総時間数というものがあるがどのように取り入れるのか。

(議員) 総合的学習の時間を有効に使う。長期休業中のところを使う、というのでやっているところもある。

(参加者) 今も中学生が体験として施設に行ったりとかしているが。一か所だけではなかなか。小学生のうちから必要。夏休みなどで時間を持て余している子もいる。

(参加者) もっと日常的に機会を増やす。湯水のように刺激を与えてスイッチを押すこと。

誰がリードするかというのもある。

(参加者) 中学生はグループで動けるが小学生は自分たちでできない。

(司会) 例えば商店街にあるそれぞれの店や職場に「出入り自由な日」を作って、子どもたちだけで気軽に、楽しく聞きに行くのもよい。

(議員) そういう時にタブレットがあればすぐできる。ICT環境については新学習指導要領で強く打ち出している。部活動としてホームページを作っているところもある。

(参加者) 山西小は畑と料理などもやっている。小5のキャンプも始まる。

(議員) 山西小のかまどは、先日のPTA活動で使用した。豚汁を100人分作って、ホットケーキミックスを水で溶いて、ビニール袋に入れて茹でてパンを作ったり、米を炊いたりして、防災食体験をした。

(参加者) トップダウンではなくて、何かを通して人が集まればアイデアが出る。楽しくなることをすれば活動が活性化してくる。

(参加者) 学校から保護者宛てにボランティアを募るお便りがくるが、それを今度は地域の人にも投げかけてみると良いのでは。

(参加者) 自発的に地域ぐるみでできるのが良い。

(参加者) 学校がオープンだよ、というところを示すと良い。敷居を高くせず。

(参加者) 中学生がお茶会を開いてくれる。子どもたちの発表もある。中学校で豚汁を作るのが決まっている。

(参加者) 正門を開けるのもそうだが、情報の窓も開けて欲しい。特にお父さんかた、卒業生、地域の人、外の人など、協力者を増やすために。門を開けるといって、不審者の問題などを言われることもあるが、開いて人の出入りがあって、みんなが顔見知りになって子どもを守る方法もあれば、完全に閉じて守るというセキュリティのかけ方もある。

(参加者) コミュニティスクールの核となるのは評議員。教育委員会としてはどのような権限を与えるのか。教科書選定などもやっているし、学校人事などにも踏み込むと書いているが、権限を与えるのか？

(参加者) 権限は3つあり、校長が作った基本方針を承認する権限と、学校の運営、先生の登用に対して意見を言うことができる、などある。その行使は、評議員として関わっているメンバーに委ねられている。最終決定は校長先生。

(参加者) 諮問機関のようなものか。決定はあくまでも学校長だと。

(議員) 町は評議会委員のメンバーをそのまま移行するというが、それは納得いかない。地域で、学校に意識をもって取り組んでもらえる人に入ってもらうべき。地区長だからと当て職でやるべきではないという意見もある。改めて募集するべき。

(参加者) うちの子は、来年4年生と1年生になる。学校がオープンであっても、親でさえ用事がある時しか行かない。セキュリティのことを言われると、どう関わればよいのかわからなくなる。学校は親とどのように協力していきたいと思っているのか知りたい。どのような関係を作ってどう子育てするのか、の話し合いがあってもよいかと思う。

(司会) 旗振りを手伝ってくれている地域の人を知らない親も多い。薄い関係になっているところもある。2年間PTAやっているが、保護者も花を育てたり、清掃したりというボランティアにほとんど来ない。保護者は日常で疲弊している。ベルマークを切る役員は仕事を休んできているなど、空気が悪い。いつでも好きな時にできるように仕事を出しておく、やる人はいる。PTA活動を外に開いていくのは大事。

(参加者) PTAは仕事が大変でだれがやるの、というのがいつも嫌だ。仕事をしている人からすれば、負担があると思う。皆が順番でやらなきゃ、というより、うまく負担分担ができたり地域の人も関わっていただいて、というのができれば良い。

(参加者) 小学生の親は、勤める人が多くなる。その時に地域のかたが入ることは大事。地域に回覧を回すとかすべき。参加できない状況の親にプリント渡しても無理。

(参加者) 成功体験などとは乖離した組織の現状なんですね。

(議員) やらされている感があるから、ぱっと集まった時に楽しい雰囲気になりたい。子どもも大人もスイッチ入れたい。二宮スイッチ。

(参加者) 私は養護学校に勤めている。障がいを持った子のキャリア教育とは？となると限界がある。この子たちのキャリアとは何だろうと思う。元々のキャリアの意味は生涯という意味。だからこの子たちを幸せにすることだと思う。知的部門もあり、身体は動くが知的障がいの子もいる。お金を稼げる子は良いが、常にドロップアウトしちゃう子もいる。企業にあう子を育成してもその子の幸せにはつながっていないというものもある。学校が選択肢を一つにしてしまっは良くないと思っている。いろんな価値観から、いろいろな分野を目指すというのが基本にあってコミュニティスクールが存在してほしい。

## 【発表】

ホームページ、PTA活動 コミュニティスクール、という大きな3つの話がでた。コミュニティスクールは順次導入されるが、地域も含めた形のキャリア教育に取り組んでいくこ

とを共有した。具体的な内容もいろいろ出た。小・中学校のうちは、誰がどこに、どのような可能性をもっているか分からないので、チャンスを与えてあげること、スイッチを皆で押してあげられることが大切。学校の様子をオープンにすることや、地域参画の気持ちをみんなに向けてもらうためにもやはりホームページが必要。PTA活動も課題があり、役員のなり手がいないなど。そこに地域のサポートが入ってもらうなど、そういったことも含めてコミュニティスクールにする必要がある。学校を外に開いていくということはしたくても、セキュリティは関門になるので、地域で子どもを育てる、というのをもっと話し合っていくのが重要ではないか。